

最優秀賞 「おばあちゃんの味噌汁」

智辯学園中学校 1年 押部 綾夏

私にはおばあちゃんがあります。おばあちゃんは天川村というところに住んでいて、毎日畑の野菜の世話をしています。春にはキャベツ、夏にはとうもろこし、秋にはさつまいも、冬には大根など、四季折々の野菜はどれもとても美味しいです。

天川に帰らなくてもたくさんの野菜を家に送ってくれ、母が料理をしてくれます。どの野菜もとても美味しく何を食べるにも幸せな気持ちにさせてくれます。

私は正月やお盆によく天川にいるおばあちゃんのもとへ帰ります。その美味しい野菜は、おばあちゃんが野菜を調理して、もっと美味しく変身させます。どの料理もとてもおいしいのですが、特に私は、おばあちゃんの味噌汁が大好きです。

確かに普通の味噌汁と何ら変わらない味噌汁ですが、具におばあちゃんの野菜がたっぷり入っていて、本当に美味しいです。いつも帰るとその味噌汁を作ってくれて、いつも楽しみにしています。

またその味噌汁は、三十年ほど前、おばあちゃんは林間学校などで天川村を訪れる小学生にも振る舞っていたそうです。私のおばあちゃんは昔からこの味噌汁を食べさせていたのかと思うと長く続いてすごいと思います。

あたたかい味が、何人もの人の心もあたたためて、幸せな気持ちにさせているのだと思います。私はそう思うと、料理はすごいと感じます。その味噌汁が食卓に並ぶだけでほっこりした気持ちにさえさせてくれるからです。

私は、もし自分が大人になって、自分や自分の身の回りに子供たちがいたら、おばあちゃんのようにあたたかい味噌汁を振舞ってあげたいです。おばあちゃんがいつも食べさせてくれる、おいしい味噌汁をいつか多くの人に食べさせてあげて、私がいつも味わうような何とも言えないあたたかい気持ちになってほしいと思うからです。

料理は、人のお腹をいっぱいにするだけでなく、心も満たすことができると思うからです。こうやって味噌汁の味を引き継いで、いつか私も料理で人をあたためたいと思います。